

## 顔面外傷・顔面骨骨折

顔は転倒、交通事故、スポーツ、殴打などで損傷を受けやすい部位です。



顔面外傷では機能（表情・目の動き・咀嚼・感覚など）に加えて、見た目を綺麗に治すことが重要です。

切り傷・打撲・顔面骨骨折・外傷後の傷痕・熱傷（やけど）など、顔の傷は私たち形成外科の専門といえます。



### 検査

傷の見た目・表情筋の動き・感覚の確認などの診察に加えて、必要に応じて

レントゲン・CT・超音波検査などを行います。

また、頭痛・吐き気・首の痛み・視野の異常がある場合には、脳神経外科・整形外科・眼科などの受診が必要な場合があります。

## 治療

### ● 切り傷

深さのある傷では局所麻酔の上、**縫合**します。

麻酔は歯科でも行われるような一般的な注射です。

傷を目立たなくするには、綺麗な縫合に加え、**術後の軟膏やテーピング**などの処置が重要です。

私たちは、細い糸を使い、顔の部位ごとに縫い方を変えるなどの工夫をして丁寧に縫合し、傷の状態に合わせて適切な処置をお伝えします。

傷跡をなくすことは出来ませんが、可能な限り目立たないようにいたします。

### ● 軟部組織損傷

顔の外傷では涙小管・顔面神経・唾液腺などの重要な組織の損傷が起こる場合があります。

適切な治療をしないと、目が閉じない・涙がこぼれる・よだれが出るなどの後遺症を残すことがあります。必要に応じて**神経や管の縫合**をします。

## 顔面骨骨折

顔面骨は前頭骨・鼻骨・頬骨・上顎骨・下顎骨など複数の骨から構成されます。

### ● 前頭骨骨折

額の凹みが気になる場合には整復する手術を行うことがあります。

折れた骨を元の位置に戻し、プレートで固定したり、ペーストで埋めたり  
します。

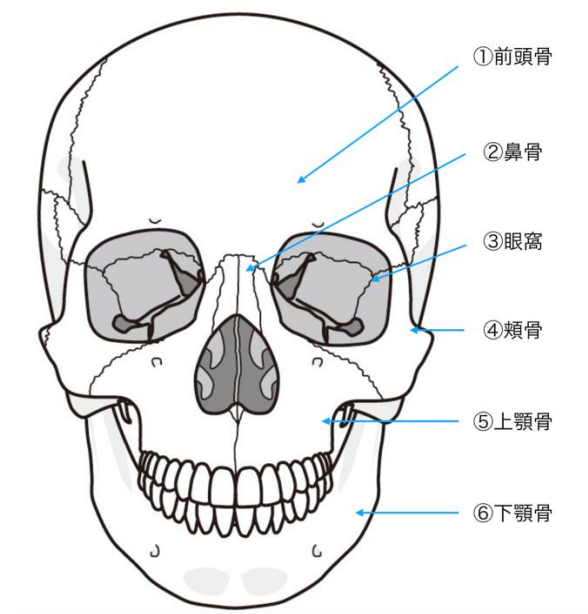
### ● 眼窩底骨折

ボールが目に当たるなど、目の周囲に強い力がかか  
ることで起きる骨折です。

物が二重に見える・目を動かすと痛む・眼球が  
凹むなどの症状が有る場合に手術を行います。

全身麻酔で、まぶたの下を切開し、目の下に  
プレートを挿入して整復します。

吐き気や痛みが強い場合には緊急手術が必要な  
ことがあります。



## ● 頬骨骨折

頬の変形・痺れ・口が開かないといった症状がある場合に手術を行います。

全身麻酔で、まぶたの下・眉毛の横・口の中などを切開し、折れた骨を元の位置に戻し、プレートで固定します。

## ● 鼻骨骨折

一番頻度が高い顔面骨骨折です。

鼻の変形が目立つ場合や鼻詰まりの症状がある場合に手術を行います。

鼻の中に器具を挿入し、折れた骨を元の位置に戻します。多くの場合、顔に傷を作らずに手術を行います。

日帰り局所麻酔での整復を行うこともありますが、

整復時の痛みが強いため入院全身麻酔とするかはご相談となります。

術後は鼻の中に詰め物をし、外からカバーをつけます。

カバーは数ヶ月つけていただきます。

## ● 上・下顎骨骨折

顎の骨は咀嚼に関わるため、他の顔面骨より固く厚く出来ています。

口が開かない・噛み合わせが悪い・口を動かすと痛みが出るなどの症状がある場合に手術を行います。

口の中の粘膜を切開し、折れた骨を元の位置に戻し、プレートで固定します。

手術後は咀嚼で骨がずれないように、数週間スクリューと輪ゴムで上下の顎を固定します。



### ※プレート固定について

骨折した骨を元の形に戻した後、プレート（添え板）とスクリュー（ねじ）を使って固定します。

時間をかけて体内に吸収されるものと、金属製（チタン）のプレートがあり、骨折の部位や折れ方によって使い分けます。金属製プレートでは骨折治癒後にプレート抜去の手術が必要な場合があります。